

シギ・チドリ類調査 ニュースレター



モニタリングサイト1000

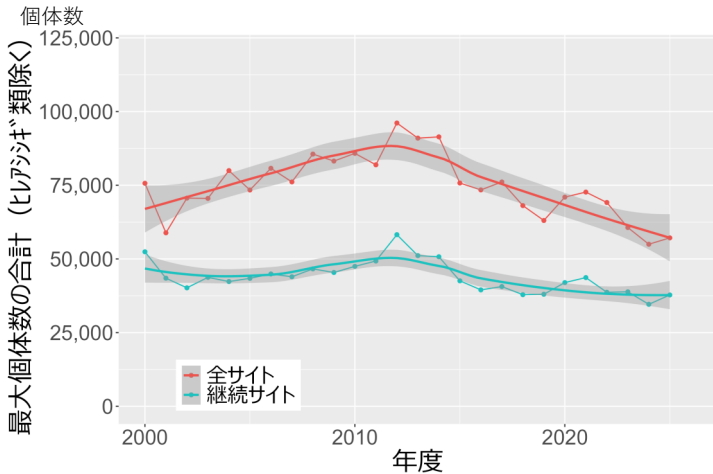
2025年度春期概要

環境省自然環境局生物多様性センター / NPO法人バードリサーチ

モニタリングサイト1000シギ・チドリ類調査 2025年度春期調査結果の概要

全国118か所のサイトで参加

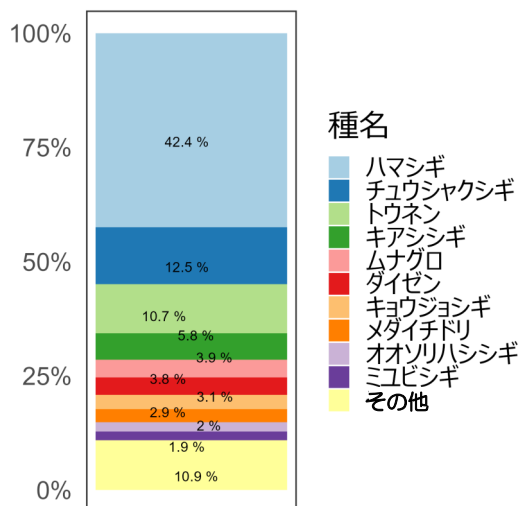
2025年度春期調査は、2025年4月1日から2025年5月31日までの期間に実施しました。全国118サイト（暫定値）で調査を行い、このうち一斉調査（2025年4月27日を基準日とした前後1週間の調査）には100サイトが参加しました。一斉調査期間では、シギ・チドリ類44種22,725羽のほか、ツクシガモ447羽、ヘラサギ4羽、クロツラヘラサギ240羽、ズグロカモメ16羽が記録されました。春期の全サイトの最大個体数（調査期間内に記録された各種個体数の最大値）の合計では、シギ・チドリ類53種57,154羽のほか、ツクシガモ1,783羽、ヘラサギ36羽、クロツラヘラサギ448羽、ズグロカモメ426羽が記録されました。



春期の個体数は前年に比べ増加

2000年度春期以降の「全サイト」と「継続サイト（2000年から調査を継続しているサイト）」のそれぞれの最大個体数の合計を、ヒレアシギ類（年次変動が大きく、海上生活者であるため）を除いてグラフに示しました（Fig.1）。全サイトには廃止済のサイト・新規サイトが含まれるため、継続サイトとは傾向が異なる場合があります。調査年の実績を示すために全サイトを、経年変化を把握するために継続サイトを解析しています。最大個体数の合計を前年の春期と比べると、全サイトでは2,159羽増加し57,154羽、継続サイトでは3,309羽増加し38,107羽となりました。全サイトでは過去3年連続で減少していましたが本年度は増加し、継続サイトも過去最低を記録した前年に比べてやや増加しました。

Fig.1. 春期調査における全サイトと継続サイトの最大個体数合計の推移（2000年度から2025年度の全サイトN=118,継続サイトN=33）年次変動の大きい海上生活者のヒレアシギ類は除外。



前年に比ベトウネンの個体数が増加

最大個体数における個体数上位5種は、ハマシギ（42.2%）、チュウシャクシギ（12.5%）、トウネン（10.7%）、キアシシギ（5.8%）、ムナグロ（3.9%）となり、全体の半数をハマシギが占める傾向は例年と同じでした。一方でキアシシギ以下の各種は6%未満であり、全体に占める割合は小さく、多様ではあるが優占度には差が大きい構成となりました。（Fig.2）。上位10種では、ダイゼン6位、キョウジョシギ7位、ミュビシギ10位と順位を下げ、ムナグロが5位、オオソリハシシギが9位で前年から順位を上げています。（Fig.3）。

Fig.2. 2025年度春期調査における種構成比

ムナグロ、オバシギが前年比で大きく増加

2025年度春の最大個体数では、ハマシギが前年から引き続き最優占種であり、種構成の中心を占めていました。ハマシギ、ダイゼン、ミユビシギの観察数は前年から減少し、とくにミユビシギは減少率が大きく、前年から約35%減少しました（Table 1 右表）。一方で、ムナグロ、メダイチドリ、オバシギなどは増加し、ムナグロは増加数（1,000羽増）・増加率（約1.9倍）ともに顕著に高く、オバシギは、前年の観察数が少なかったことから、非常に高い増加率となりました（Table 1 左表）。

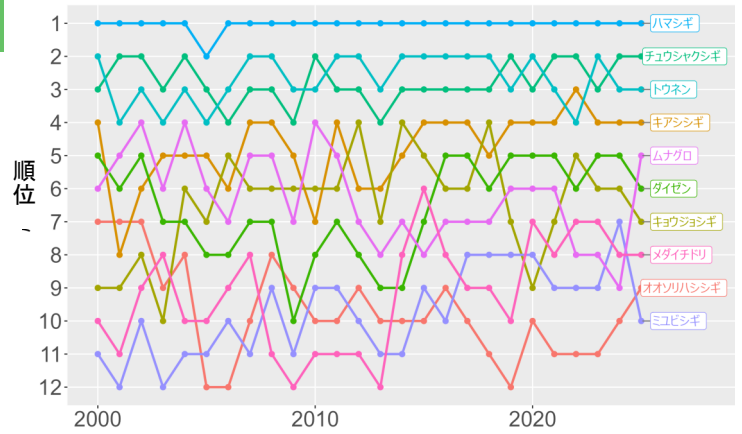


Fig.3. 2025年度春期調査における最大個体数上位10種の順位の変化(2000年度から2025年度)

Table 1. 2025年度春期における種別の最大個体数の前年差 左表: 増加上位6種、右表: 減少上位5種

種名	2025年度春期最大個体数 増加数上位 (全サイト)		前年差	前年比
	2024年度春	2025年度春		
ムナグロ	1,180	2,217	1,037	1.88
トウネン	5,726	6,125	399	1.07
メダイチドリ	1,287	1,686	399	1.31
オバシギ	88	444	356	5.05
チュウシャクシギ	6,817	7,164	347	1.05
キアシシギ	3,075	3,295	220	1.07

種名	2025年度春期最大個体数 減少数上位 (全サイト)			
	2024年度春	2025年度春	前年差	前年比
ハマシギ	25,617	24,249	-1,368	0.95
ミユビシギ	1,623	1,068	-555	0.66
ダイゼン	2,457	2,178	-279	0.89
ハジロコチドリ	10	5	-5	0.50
サルハマシギ	15	11	-4	0.73

地域間での利用の違い

春期のシギ・チドリ類最大個体数は、依然として有明海・八代海周辺に強く集中し、とくに大授^{だいじゅ}搦（佐賀県）は、単に一時的にシギ・チドリ類が集まる場所ではなく、長期的にも安定して高い収容力を持つ基幹中継地であることが示唆されています。その他のサイトでは、中津干潟（大分県）、三番瀬（千葉県）、風蓮湖（北海道）、氷川（熊本県）などで、前年に比べ減少が認められ、従来の主要中継地の一部で収容力の低下が懸念されます。一方で、不知火干潟（熊本県）、鹿島新籠海岸（佐賀県）、高瀬川河口～むつ小川原港（青森県）などでは、前年に比べ増加がみられ、地域間で利用に変化が見られました。ただ、個体群がサイトの変化に応じて中継地の選択を変えている可能性のほかに、単に調査タイミング差の可能性もあるため、全国動向の把握には主要サイトの比較だけでなく、海域・地域単位での評価と長期監視を行っていく必要があります。

Table 2. 2025年春期における最大個体数上位15サイト

年度	サイト	サイト別 春期最大個体数 (シギチドリ類)		
		最大個体数 ¹	前年差	前年比
2025	大授搦	15,967	1,027	1.07
2025	中津干潟	2,815	-1,176	0.71
2025	不知火干潟	2,340	622	1.36
2025	三番瀬	2,273	-234	0.91
2025	白川河口	2,153	55	1.03
2025	鹿島新籠海岸	1,800	694	1.63
2025	藤前干潟	1,746	159	1.10
2025	球磨川河口	1,640	375	1.30
2025	高瀬川河口～むつ小川原港	1,621	984	2.54
2025	風蓮湖	1,584	-170	0.90
2025	氷川	1,566	-163	0.91
2025	泡瀬干潟	1,525	764	2.00
2025	早津江川河口 (川副町)	1,191	-495	0.71
2025	谷津干潟	1,141	467	1.69
2025	野付崎・尾岱沼	1,130	-723	0.61

モニタリングサイト1000 シギ・チドリ類調査 ニュースレター タイトル写真: ツバメチドリ(三木敏史) 2025年度 春期概要

発行元: 環境省自然環境局生物多様性センター

<https://www.biodic.go.jp/moni1000/>

編集: 特定非営利活動法人 バードリサーチ

<http://www.bird-research.jp/>

編集者 守屋年史

電話/Fax: 042-505-4044

メール: shigichi@bird-research.jp